



庭にオオキンケイギクは 咲いていませんか？

オオキンケイギクは「**特定外来生物**」で、栽培はできません。

オオキンケイギクは、5月から9月ごろまで鮮やかな黄色の花を咲かせます。種子で広がるだけでなく多年草なので毎年、地中に残った根からも茎・葉が伸びてきます。在来植物の生育場所をうばうおそれから外来生物法で特定外来生物に指定されており、**栽培することは禁止されています**。

みなさんの土地に生えていたら**抜き取ってください**。

庭など人が所有・管理している土地にこの植物が生えていると、栽培されている状態とみなされる可能性があります。もし、オオキンケイギクが生えていることに気づいたら、なるべく早く、できれば花が咲くよりも前に、根を残さないように抜き取って下さい。

なるべく種をつける前に、**燃えるゴミとして回収**を。

花の咲く時期は長いですが、花は咲いた後、次々に「実」になり、黒っぽい種がたくさんできます。抜き取ったり切り取ったりした花を、そのまま放置しても実になります。そのため、抜き取った後は、すぐにお住まいの地域のゴミ回収用の袋に入れ、実や種がこぼれないよう、袋の口をしっかりと閉じ、燃えるゴミとして回収してもらって下さい。

抜き取った後も、新しい芽生えにご注意を。

丈の高い株を抜いた後には、同じように細長いへうのような形の葉をした小さな芽生えが生えていることがあります。また、地面に落ちた種や地面に埋まっていた種から新しい芽が育つこともあります。このように小さな段階で見つけたら、できるだけ早く抜き取って下さい。

キバナコスモスとの見分け方。

9月ごろから咲き始めるキバナコスモスによく似ていますが、キバナコスモスは花がオレンジ色っぽく、葉が細かく分かれた形なので見分けられます。キバナコスモスも外来種ですが、特定外来生物などの規制対象ではないため、ふつうのコスモスと同じように栽培できます。



花が終わると茶色の実ができる



小さな芽生えも対象に



秋に咲くキバナコスモス

所有・管理している土地で オオキンケイギクを見つけときの対応のしかた

＜まず確認：葉の形を覚えてください＞

オオキンケイギクを見分けるときは、特徴的な花（色・形や時期）を目印として、細長い「へら」のような葉の形を、写真に保存するなどして、一緒に覚えてください。（葉の形がわかっていると、花の咲く前や、花を付けない小さな個体も除去することができます。）



＜取り除く方法：できれば「抜き取り」で＞

オオキンケイギクを取り除くときは、なるべく根の部分を残さないように抜き取ってください。

＜取り除く対象：花のない個体も＞

同じ形の葉をした花を付けていない個体（小さい個体を含め）も、できるだけ取り除いてください。



＜処分の仕方：燃えるゴミとして＞

オオキンケイギクを取り除いた後は、すぐに燃えるゴミの袋に入れ、実や種がこぼれないよう袋の口をきちんと閉じ、燃えるゴミの収集日に回収してもらってください。

＜積み置きは厳禁！＞

取り除いたオオキンケイギクは、地面に積み置かないようにしてください。実や種ができていると、積み置いた場所に種が落ちて、新しく生えてくるかもしれません。また、取り除いたときには花しかなくても、積み置かれている間、枯れてしまう前に実や種を付けてしまうこともあります。



＜自治会等での対策：地域での周知を＞

個人ではなく、自治会等の地域の団体でオオキンケイギクを取り除く場合には、事前に回覧や掲示板、インターネットなどで、いつ、どこで活動を行うのか、地域への周知をはかってください。

※オオキンケイギクが指定されている「特定外来生物」は、法律により生きたままでの移動や保管が禁止されています。環境省では自治会等の活動が法律に違反しないために、活動を公表することを条件の一つとしています。



＜アフターケア：再生を防ぐために＞

オオキンケイギクを取り除いた場所には、小さくて気づきにくい芽生えがあったり、土の中に種が眠っていたり、根が完全に取りきれず残っているかもしれません。そのため、取り除いた後も、オオキンケイギクが残っていないか、再生していないかを、見回って確認する「アフターケア」を忘れないようにしてください。少し面倒ですが、せっかく取り除いたときの努力を無駄にしないためにも、アフターケアは大切です。

アフターケア
で再生防止

道路や河川などで大規模に生えているオオキンケイギクについては、管理者（県や市町など）が必要な手続きを行って取り除くことがあります。自治会の活動範囲がこれらの区域に重なる場合はそれぞれの管理者までお問い合わせください。